



大寒波 襲来

～とても寒かったですね～



1 月 24 日 (火) ～25 日 (水) にかけて、「10 年に 1 度の今季、最強寒波」が襲来し、筑女幼稚園でも厳しい寒さを体感しました。

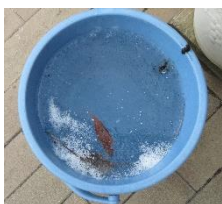


しかし、子ども達は、とても元気でした。小雪混じりの強風が吹き荒れ、視界が白くかすんでしまうような中でしたが、元気に走り回っていました。「雪が降ってるけど、寒くない?」「園長先生、寒くないよ。走ったら暑くなるよ。」「え～つ、ホントに…??」「うん、嘘だと思うなら、走ってみてよ」こんな会話を交わしながら、年長の子どもは走り去っていきました。「子どもは風の子」だなど、改めて実感した瞬間でもありました。

とても寒い 2 日間でしたが、寒いからこそ新たな発見や気づきがたくさんあったようです。

【バケツの水が氷になりました】

前日の帰り際に教頭先生がマイナスの冷え込みを想定して、バケツに水を入れて置いていました。見事にバケツの水の全体が氷になっていました。



【霜柱やつららも発見しました】

長さ 4～5 cm はあるような大きな「霜柱」や軒下から下がった「つらら」を発見していました。10 年に 1 度の最強寒波の副産物だったようで、発見した子ども達は楽しそうでした。



【水道の蛇口が破損しました】

園庭にある水道混合栓内の水が凍結・膨張により、破損し水漏れが発生しました。皆さんのお家は、大丈夫だったでしょう



♪どこかで春が～♪

この時期になると、いつも、童謡「どこかで春が」を思い出します。きっと、私自身が暖かな春を待ち焦がれているからだと思います。

♪どこかで春が生まれてる どこかで水が流れ出す♪ これは山の 3 月の情景ですが、筑女幼稚園は丘の上にあるとは言っても、2 月には春が生まれてくるのではないかと思います。登降園される時には、お子さんと春を見つけて季節を感じてほしいと思います。

そういえば、今週末 (4 日) が立春になります。その前日が節分「季節を分ける」という日になります。本来は、24 節気の立春、立夏、立秋、立冬の前日すべてが節分となります。その中でも、春は新年の始まりでもあることから、室町時代以降、春の節分が重要視され立春の前日を一般的な節分として指すようになったと言われています。

一般的に節分は、「鬼は外、福は内」と豆をまいて厄払いをし、その豆を年の数だけ食べて新しい年の無病息災を願う行事とされていますが、豆まきの掛け声や風習は、地方によって様々だそうです。掛け声を例にとると、「鬼は内、福は内」「福は内 (鬼は言わない)」「鬼は内、福は外」など色々とあるようです。

春の花と言えば

桜かチューリップですね。年中の皆さんが牛乳パックを利用して、チューリップの球根を植えていますが、先日の最強寒波の時には、土そのものが凍土化して、湿り気チェックの箸をつかんで持ち上げることができました。冷凍チューリップになっていないか心配していますが、芽が見えてきた鉢もあり、ホッとしています。



法面工事始まる

法面の土が流出したり、金具が破損したりしていました。2 月 5 日 (日) から土・日・祝日を利用して法面の工事が始まります。通行に支障はありません。

